

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立小池小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自分の考えを図や表、言葉を用いて表現する経験の積み重ねを通して、既習事項を活用して課題に対する自分の考えを表現したり、友達の考えを理解しようとしたりする姿勢が身に付いた。
- ・日常生活とのつながりを意識した学習を取り入れた結果、3学年ともに目標値を上回っており全体的に学力の定着を図ることができた。

(2) 課題

- ・具体物や半具体物を使ったり、実際に測定したりする活動を通して、時間や重さ、分数や小数などの量感や抽象的な概念の理解を育む指導の改善を図る必要がある。
- ・□を使って立式する問題や、基準量から比較する量を求める問題などの数を置き換える問題に課題が見られた。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

【◎…目標値を上回った(+5以上) ○…目標値と同程度(±0～+4.9) ▲…目標値を下回った】

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	◎	/	/
第5学年	◎	○ (第4学年時)	/
第6学年	◎	○ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を上回っているが、3桁+4桁の計算や、3桁-3桁の計算での繰り上がりや繰り下がりについての誤答が20%弱見られた。	正答率が目標値を上回っているが、□を使って乗法の式に表す問題でつまずきが見られた。	主体的に取り組める児童が多い一方で、正答率が目標値を下回っている児童も一定数おり、個に応じた指導の充実が必要である。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を上回っている。ひし形の作図をおよ	目標値を上回ってはいるが、与えられた情報を読み取	目標値を上回る結果であったが、意欲的に取り組む児

そ半数の児童が正確に描けなかった。	り、基準量と割合から求めた量を比べる記述問題の正答率が低かった。	童と苦手意識がある児童とでの正答率や達成率に差が見られるため、さらに児童の意欲を高める指導が必要である。
-------------------	----------------------------------	--

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○単元の学習が終了後、プリントやドリルパークなどを通して継続的に四則計算に取り組みさせるようにする。また、個別に声を掛けて、つまずきの見られる児童の学習内容の定着を図っていく。	○自分がどのように問題の場面や式、答えを考えたのかを、言葉や図で表したり、発表したりする活動を取り入れるようにする。	○植物の観察時に長さや高さを測るなど、他教科や実生活と関連させるようにする。 ○時間の単位を日常生活で使っていくことの良さに気付かせ、目盛りを正しく読むことの大切さを実感できるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○筆算の学習では、繰り上がりや繰り下がりの数字を書く位置や書き方の共通理解をノート指導の見本とともに示し、正確に計算ができるようにする。検算をする習慣を付けるために授業内で常時取り入れる。	○文章問題における立式の場面では、分かっていることとこれから求める必要があることについて、アンダーライン等を用いたり、テープ図や線分図で問題場面の把握をしたりする。	○デジタル教材を活用し、児童が興味関心をもって算数の学習に取り組めるようにする。 ○ドリルパーク等を活用し、個に応じた図形やデータの活用に関する学習に取り組む機会を設定する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○作図の技能を定着させるために、単元の学習中だけではなく、月に1度以上は、算数の授業で練習する機会を設け、コンパスや三角定規の使い方を指導していく。コンパスを使う意義や図形の性質の理解の徹底を図る。	○表やグラフから適切に情報を読み取る力を付けるために、算数だけではなく、社会や理科などの他教科とも関連して、丁寧に読み取る時間を確保し、重点的に指導していく。	○総合的な学習の時間や、おたの未来づくり科、実生活などでも、算数で学んだ資料の読み取りや情報処理能力が活用できる機会を意識的に設けることで、主体的に学習に取り組むようにする。